

# H30学力向上アクションプラン(姫島村)

## 目標及び指標

### 【目標】

#### ア. 児童生徒の学力向上に係る目標

- 1) 全国学力・学習状況調査(平均正答率), 県学力定着調査(偏差値)において, 全ての教科のA・知識問題が全国を超える。
- 2) 全国学力・学習状況調査(平均正答率), 県学力定着調査(偏差値)において, 全ての教科のB・活用問題が全国数値と比較し差を改善する。
- 3) 村独自の総合学力調査において全ての教科の基礎基本・活用ともに目標値を上回る児童生徒の割合を高める。

#### イ. 学力向上に関して抱える課題を解決するための目標(家庭・地域との連携)

- 1) 「家庭学習のすすめ」を活用し, 家庭学習習慣の定着を図る(特に毎日の家庭学習の定着を目指す)。
- 2) 学校・家庭・地域(村教委)が連携し, 基礎基本の定着を目指した、「かにつこ塾(小4～小6)」や「水曜日塾(中2)・土曜日塾(中3)・数学塾(中1～中3)への参加を呼びかけ, 参加率を上げる。

### 達成指標

### 取組指標

全国学力・学習状況調査(平均正答率), 県学力定着調査(偏差値)において, 全ての教科のA・知識問題が全国を超える。(100%)

小学校は, 前年度の3月から, 学年のまとめを意識し, 全国及び県の調査で課題であった問題に取り組む(実施率100%)。また, 4月当初にも同様に取り組み, 解説をすることで, 調査準備を図る(実施率100%)。年間を通しては, 朝の「かにつこタイム」や課後の「チャレンジタイム」を使って国語・算数の補充学習を毎週4回年間を通じて実施すると共に, 金曜日の朝活動で読解力向上を図るための問題集を計画的に取り組む。

中学校は, 前年度の3学期末から, 全国及び県の調査で課題であった問題に取り組む(結果分析を行い, 正答率の低い問題の補充を行う)。年間を通しては, 課後の「やはずタイム」を利用してA(知識)問題, 週末課題を利用して活用問題に取り組む。

また, 小学校段階からの学力向上を目指し, 数学教員・英語教員が専門的なスキルを生かし, 小学校へ赴き(乗り入れ授業), TT指導を展開する(実施率90%以上)。

全国学力・学習状況調査(平均正答率), 県学力定着調査(偏差値)において, 全ての教科のB・活用問題が前年度の全国数値と比較し差を改善する。

【小学校】 B(活用)問題の類似問題を「チャレンジタイム」を使って国語・算数の補充学習内で取り扱う。また, 複雑な文章の読解力向上を目指し, 金曜日の朝活動で読解力向上を図るための問題集を計画的に取り組むことで, 活用問題への対応に充てる。

【中学校】 B(活用)問題の類似問題を「やはずタイム」を使って国語・数学の補充学習内で取り扱う。週末課題(家庭学習)を利用して活用問題に取り組む。

また, 小学校段階からの学力向上を目指し, 数学教員・英語教員が専門的なスキルを生かし, 小学校へ赴き(乗り入れ授業), TT指導を展開する(実施率90%以上)。

村独自の総合学力調査において, 国・算・数学の基礎基本・活用ともに平均正答率を上回る児童生徒の割合を75%以上ににする。

【小学校】過去の調査の分析結果や単元末テストの分析結果から, 各学年の課題を見出し, 復習並びに弱点補強を行う。年間を通しては, 朝の「かにつこタイム」や課後の「チャレンジタイム」を使って国語・算数の補充学習を毎週4回年間を通じて実施する(実施率100%)と共に, 金曜日の朝活動で読解力向上を図るための問題集を計画的に取り組む(100%)。また, 意図的かつ計画的に補充問題を家庭学習の課題として, 取り組ませたり, 放課後かにつこ塾(11月～)などで取り扱ったりすることで, 更なる理解・定着を図る。

【中学校】過去の調査の分析結果や定期テストの分析結果から, 各学年及び教科の課題を見出し, 復習並びに弱点補強を行う。年間を通しては, 「やはずタイム」を使って国語・数学の補充学習を通じて実施する(実施率100%)と共に, 水曜日塾や土曜日塾, 数学塾など学校外(社教主催)においても取り扱うことで, 更なる理解・定着を図る。

また, 小学校段階からの学力向上を目指し, 数学教員・英語教員が専門的なスキルを生かし, 小学校へ赴き(乗り入れ授業), TT指導を展開する(実施率90%以上)。

## 行動計画

### ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について

#### ○1時間完結型授業の展開

- ＜小学校＞ 姫島スタンダードの校内研修との連動及びその定着と, 課題の質・話し合い活動の充実を図る。
- ＜中学校＞ 校内研修と連動し, 主体的な学びを促すために「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定の充実を図る。

#### ○板書の構造化

- ・黒板にめあて・課題・まとめ・ふり返りを位置づけるとともに, 児童生徒の考えが黒板に類型化されるようにする。
- ・見える化を図るため, ICTの活用を推進する。

#### ○習熟の程度に応じた指導

##### ＜小学校＞

- かにつこタイム(朝ドリル)やかにつこチャレンジ(補充学習)において, 複数体制での指導を定着させ, 個別指導の充実を図ると共に, PCソフト(e-ライブラリシステム)の導入により, 進んで弱点補強を図る。

##### ＜中学校＞

- ・習熟度別少人数指導教員(英語)・学力向上支援教員(数学)の活用。
- ・年3回以上の授業公開を実施し, 研修等で身につけた優れたノウハウを普及させる。
- ・生徒一人一人の力に見合った学習プリントや教材, 授業とリンクした個に応じた家庭学習課題等, きめ細かな授業や指導の実践。

#### ○生徒指導の3機能を問題解決的な展開

- ・「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育む」を意識した授業づくりを実践する。
- ・アクティブラーニングの視点を取り入れた授業展開をし, 児童生徒が一人一人自分の考えを持ち, 積極的にコミュニケーションをとるとともに, 問題解決型思考(深い学び)を身につけさせることで, 自己肯定感(セルフエスティーム)の向上を図る。

#### ○取組の評価及び改善等

- ・教職員・保護者・児童生徒アンケートによる評価を活かして授業改善を行う。・生徒による授業評価「課題」「板書」「まとめ」を実施し, それを授業改善に反映する。
- ・授業観察・互見授業で観察シートを活用した評価を活かして授業改善を行う。

### ②「中学校学力向上3つの提言」に関して

#### 1) 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底

- 教科の壁を越え, すべての教科に共通した授業改善の取組内容を設定し, その視点に基づく互見授業・授業研究を実施する。
  - ・年2回以上の互見授業週間で教職員の授業から学び, よい点を自分の授業に活かす自己研鑽
  - ・新大分スタンダードに基づいた授業観察シートを活用した授業力向上

#### 2) 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築

- くさき地区教科部会の組織をあげた取組やネットワークを活用した授業改善
- 地区教科部会ごとの年1回以上の授業研究会の実施と事後研究会の充実による授業改善の推進
- 各種学力調査の結果分析をもとに, 地区教科部会ごとにその専門性を活かしたフォローアップシートの作成
- フォローアップシートの作成を通じた児童生徒の学力の課題把握により, 授業のあり方を振り返り, 授業改善に役立てる取組の推進
- 小中連携の取組の一貫で, 小学校の算数・外国語科授業への参加(T1・T2)による基礎基本の徹底

#### 3) 「生徒とともに創る授業」の推進

- 生徒による授業評価を実施し, それを授業改善に反映する。

### ③新学習指導要領の実施に関して

#### ○小学校外国語に関して

- 姫島小学校は, 全学年対象に外国語科を設け, H28から実施している。年間授業時数は, 1年(34h), 2～4年(35h), 5・6年(55h)となっている。ALT(国東高校から月1～2回), や中学校英語教諭(5・6年のみ週1時間))との連携を図りながら, 会話力・コミュニケーション能力の育成を図る。

#### ○学習の三要素の定着と見方・考え方の育成

- ・活用を意識した知識技能の定着及び思考力・判断力・表現力, 並びに学びに向かう力・人間性の育成を, 各教科内で見方・考え方を働かせながら, 授業展開を行う。
- ・アクティブラーニングの視点を取り入れた授業方法の研究を進めると共に, 児童生徒一人一人の授業への参画意識を高め, 相手の考えを聴く姿勢を育み, 自分の考えを相手に伝える能力の育成を図る。

#### ○「持続可能な社会の創り手(前文)」を育成するためのESDの視点を取り入れた学習展開カリキュラムマネジメントを行い, 「ふるさと科」における教科横断的な取組を推進する。

- ・ジオパークにおける関係機関との連携強化, 学習活動の持続及び推進。
- ・ジオミュージアムにおける関係機関との連携強化, 学習活動の持続及び推進。・地域材(人・もの・こと)の再発掘及び教材化, 並びに児童生徒の郷土愛の醸成。

#### ④家庭・地域(行政及び関係機関含む)並びに幼小中連携による学力向上の取組について

##### 1) 放課後や土曜日の教育環境の充実

##### 放課後を活用した学力向上の取組

- ・かにつこ塾(小4～小6, 毎週水曜日実施)・水曜日塾(中2, 毎週水曜日実施 数学・英語)・数学塾(中1～中3を対象に毎週火曜中1・2 木曜中3各学年1回実施 希望塾)
- 土曜日を活用した学力向上の取組
- ・毎月1回の土曜授業の実施(小1～小6, 中1～中3, 土曜日実施)
- ・土曜日塾(全中3, 毎週土曜日実施)

##### 2) 学校・家庭・地域が連携して「学力向上」の協働達成をめざす

- ・毎日, 家庭学習時間確認の声かけを保護者がする
- ・「家庭学習のすすめ」を活用し, 家庭学習の定着を図る。また, 小学校では毎月2週間程度「かにつこがんばりカード」の取組を行い, 学習習慣の見直し, 定着を図る。
- ・毎月1回授業公開をする(中学校)

##### 3) 幼小中連携

- ・幼小の連絡会のみならず適宜, 園児や小学生の情報交換を行う。
- ・小中連携会議でユネスコスクール及びESDの研修を行い, 計画的に授業へ取り入れていく。
- ・音楽科(毎週火曜日 4年生以上), 算数科(毎週月・水・金曜日 6年), 外国語科(毎週木曜日 5・6年生)において, 中学校教員の専門性を生かした乗り入れ授業を行う。